

ACL 再建術後の伸展制限と膝伸展筋力回復の関係

○柏 薫里 (かしわ かをり) (MD)¹⁾, 山口 基 (MD)¹⁾, 佐々木 謙 (MD)¹⁾, 中山 寛 (MD)²⁾,
吉矢 晋一 (MD)²⁾

¹⁾ 明和病院 整形外科

²⁾ 兵庫医科大学 整形外科

【目的】

前十字靭帯 (ACL) 再建術後の膝関節伸展制限と筋力との関係を検討したので報告する。

【対象と方法】

当院でハムストリング腱を用いた2重束 ACL 再建術を行ない、術後スポーツ復帰まで経過を観察可能であった146例を対象とした。男性62例、女性84例、平均年齢22.3歳である。膝の伸展制限は術後3ヶ月の時点での Heel Height Difference (HHD) で評価し、5cm 以上を伸展制限ありと定義した。膝関節伸展筋力は術後6ヶ月の時点での BIODEX を用いた角速度 60° /sec のピークトルクの患健側比で評価した。

【結果】

HHD5cm 以上の伸展制限は21例 (14.4%) に認めしたが、男性9例 (14.5%)、女性12例 (14.3%) と男女間での差はなかった。術後6ヶ月での膝伸展筋力の患健側比は伸展制限あり群では $74.0 \pm 17.5\%$ 、なし群では $81.3 \pm 14.2\%$ と有意差を認めた。ただし、性別での比較を行うと、男性では有意差を認めなかった一方、女性では有意な差を認めた。

【考察】

術後3ヶ月で20度以上の膝関節伸展制限を残した症例は女性1例のみであったが、HHD5cm 程度の軽度な伸展制限であっても、伸展筋力の回復が遅れる傾向を認めた。ただし、男性は術後早期に軽度の伸展制限を残していても筋力回復は良好でスポーツ復帰に関して問題にならない例が多かったが、女性では膝伸展筋力の回復が遅れる傾向にあった。